



名古屋コーチンで初めてヒナの羽根で雌雄鑑別が可能に！

－名古屋コーチン卵用新系統（NGY6）の開発－

開発の背景・ニーズ

名古屋コーチンの卵用系統では、2000年に開発したNGY4について、生産現場から産卵率や卵重の更なる改善を要望されるとともに、ヒナの雌雄鑑別を行う鑑別師の不足や高齢化が問題となっていました。そこで、これらの課題に対応するため、2001年度より卵の外観と産卵性に優れ、ヒナの肛門ではなく羽根の形状の違いで雌雄鑑別ができる新たなNGY4に代わる新卵用系統(NGY6)の開発に取り組んできました。

成果の内容

- ①NGY6系統（図1）は、ヒナの羽根の形が遅羽性（羽根の伸長が遅い個体）の系統であり、すでに開発されている速羽性（羽根の伸長が早い個体）系統を雄親として交配することで、生まれてくるヒナの羽根の形状の違いから容易に雌雄を鑑別できます（図2）。
- ②卵については、名古屋コーチン卵の特徴的な「桜色」の卵殻色が、より鮮やかな桜色（ $b/a=0.8$ ）※への改良、及び卵殻表面にある桜吹雪の様な「白斑点」が現れる確率も10倍程度高くなりました。産卵性も向上し、NGY4系統に比べてふ化後181日～390日（産卵開始～後期）の産卵率が8.2%、ふ化後270日の卵重が8.4%向上しました（表）。



図1. 卵用新系統NGY6（右♂、左♀）と名古屋コーチン卵

表. 卵に係る改良状況		改良前	改良後	備考
卵殻の色※	(b/a)	1.7	0.8	目標値0.8
白斑点出現率	(%)	7.8	70.8	
産卵率	(%)	73.2	79.2	ふ化後181～390日成績
卵重	(g)	53.7	58.2	ふ化後270日時点

※：a、bは色を表す数値の一つで、aは赤色度、bは黄色度を示しています。



図2. 羽根による雌雄鑑別のしくみ

愛知県農業への貢献

- (1)地鶏で初めて可能にした羽根による雌雄鑑別で鑑別師不足や鑑別師の高齢化に対応します。
- (2)羽根による雌雄鑑別により、誤鑑が減少し、生産者の収益性が向上します。
- (3)外観（桜色の卵殻色や白斑点）改善で、名古屋コーチン卵の付加価値がさらに向上します。